

# 今月の農業情報

尾 張

小川嘉吉氏、緑白綬有功賞を受賞

と き 平成30年11月14日（水）

と ころ 東京都港区赤坂（石垣記念ホール）

農業経営士である小川嘉吉氏が、大日本農会農事功績者表彰において、緑白綬有功賞を受賞し、この日授賞式が行われました。今までの農業経営や地域農業への貢献、愛知県農業経営士協会会長歴任、などの功績が認められた結果です。

小川嘉吉氏は、丹羽郡扶桑町の農業法人「株式会社扶桑農産」の経営主であり、昭和57年に農事組合法人として共同経営を開始後、大規模な土地利用型の経営を確立してきました。また、研修生や独立就農希望者の受け入れ、農業大学校の派遣研修への協力など、積極的な就農支援を実施しています。さらに、平成26年度からは愛知県農業経営士協会副会長、28、29年度で同協会会長を務めました。このほか、小学校の社会見学先になるなど、地域において高い信頼を得ています。このような功績が認められて、今回の受賞となりました。



【受賞の小川嘉吉氏】

知 多

南知多町の堀江佐尚氏が平成30年度愛知農業賞を受賞

と き 平成30年12月19日（水）

と ころ JAあいちビル 14階 大会議室

堀江佐尚氏（南知多町・露地野菜経営）は、平成30年度愛知農業賞（あいちアグリアワード）・担い手育成部門（公益財団法人・愛知県農業振興基金主催）を受賞し、表彰式が12月19日にJAあいちビルで開催されました。これまで堀江氏が行ってきた担い手の育成確保、地域農業の振興への取組が評価されたもので、今後もその手腕の発揮が期待されます。

堀江氏は、平成6年に完成した国営農地開発事業南知多地区内で、いち早く露地野菜の機械化による大規模経営を確立しました。現在、キャベツ、ブロッコリー、タマネギ、スイートコーンなどの延べ栽培面積は15haに上り、地域のトップクラスです。これまで、露地野菜での就農をめざす研修生5名を受け入れて就農に導きました。堀江氏のもとで指導を受けた研修生達は、新規就農者として自らの農業経営の中で研修中に学んだ優れた栽培技術や経営理念を実践しています。新規就農者の今後の活躍が期待されます。



【記念講演を行う堀江佐尚氏】



【堀江佐尚氏と後継者の泰之氏】

と き 平成30年11月7日（水）

ところ 碧南市（JAあいち中央碧南営農センター）

農業改良普及課が、新規就農者等を対象にNBAセミナーを開催しました。セミナーでは、碧南市の露地野菜農家（青年農業士）2名が、経営内容や現在の取組等を紹介したほか、参加者同士の意見交換・交流を行いました。参加者からは、青年農業士に対して、雇用に関する質問等が出されました。また、参加者同士で連絡先を交換する場面が見られました。

NBA（Nishimikawa Beginners of Agriculture）セミナーは、平成13年度から新規就農者を対象に実施しており、本年度は、碧南市の青年農業士2名を講師に迎えて開催しました。

講師からは、法人の代表に就任した経緯、生産物のPRの取り組み内容、現在の人員で無理のない面積を確保すること、パートが働きやすい環境を整えることなど、実際に経営するにあたり心がけていることについて紹介がありました。

参加者からは、パートをうまく活用するためのコツについて質問が出され、講師が回答しました。

意見交換・交流は、講師も交えて4～5人のグループに分かれて実施し、互いの現状を説明し合うなど、活発な意見交換が行われました。

と き 平成30年11月24日（土）

ところ JAあいち豊田本店（豊田市西町）

豊田洋らん研究会が、洋ランの展示・即売会を開催しました。展示会では、シンビジウム等を展示し研究会の活動内容をPRしました。即売会は、毎年の恒例行事として定着しており、開場2時間前から花を買い求める常連客が列をなし、高額なアーチ仕立てのシンビジウムを始め準備した300鉢全てを売り切り、大盛況でした。

即売会では生産者自ら販売を行いました。この即売会は、生産者にとって直接消費者から花色や仕立て方法の好みが見られる貴重な機会であり、今後の品種選定の有益な情報を得ることができます。農業改良普及課はJAとの調整を始め、運営全般や開催内容のPR活動を支援しました。



【展示会の様子】



【混雑する即売会場の様子】

と き 平成30年11月10日（土）

ところ 道の駅もつくる新城（新城市）

奥三河高原シクラメン組合が道の駅で品評会を開催しました。消費者の意向把握のため、「苗物」「4号鉢」「5号鉢」の3部門で、一般来場者200人の投票によって入賞順位を決定するとともに、選んだ理由等のアンケートを行いました。組合員は「消費者の関心や価格意識がわかり良かった。アンケートでは作る側とは異なる視点の意見があり刺激になる」と話し、今後、農業改良普及課が結果をまとめて組合員の販売戦略に活用していく予定です。

苗物部門で20点（240鉢）、4号鉢部門で20点（40鉢）、5号鉢部門で21点（42鉢）が出品され、各部門で「ワーリーギグクラシカルドレス赤」、「ベラノフジダークバイオレット」、「ビクトリア赤」が金賞を受賞しました（全てシクラメン）。投票終了後には出品物の即売会を行い、300鉢余りを3時間ほどで販売しました。

投票対象を選んだ理由のアンケートは、「大きさ」、「色」、「品種」、「その他」を選択肢とし、複数回答ありの選択式としました。「色」と回答した割合は各部門で51～61%と最も高く、次いで「品種」、「大きさ」、「その他」の順となりました。



【審査を行う来場者】



【金賞を受賞した出品物  
（左から「5号鉢」「4号鉢」「苗物」）】

と き 平成30年11月9日（金）

ところ JAあいち経済連東三河センター（豊橋市西幸町）

三河温室園芸組合の食用ギク農家5名が天敵保護資材「バンカーシート」を用いたハダニ・アザミウマのIPM防除実証に取り組んだ結果、5名とも前年より被害が軽減し、防除効果が認められました。農業改良普及課は、実証結果をとりまとめ、防除のポイントを整理して、この日行われた愛知県つまもの振興協議会菊花全体研修会で発表したところ、天敵の効果がはっきり現れたことに高い関心が寄せられました。

「バンカーシート」は、耐水性のケースに、天敵、餌、天敵が卵を産むシートが入っていて、農薬散布で天敵数が減少しても、天敵を放出し直す手間が省ける資材です。蒲郡市内の食用ギク農家が平成30年3月から7月までハダニ・アザミウマを対象とした実証に取り組み、農業改良普及課は支援してきました。

研修会で、防除のポイントを①ハダニが0に近い状況での放飼に努めること、②収穫開始の10日前からは、天敵温存よりも臨機防除を優先すること、③アザミウマ防除には黄色粘着板も併用することと整理して実証結果を報告しました。



【ほ場でのバンカーシート設置の様子】



とき 平成30年12月5日（水）

ところ 東京大学（東京都文京区）

花き業界として推奨できる品種を選定するジャパンフラワーセレクション秋審査会において、田原市の生産者が育成した洋花グロリオサのオリジナル品種が優秀賞のベスト・フラワー賞を受賞し、授賞式が行われました。鮮やかなオレンジ色で、茎が固く日持ちがよいことが評価されました。

授賞式に出席した生産者藤井隆志氏は、受賞による品種のPR効果を高く評価しており、オリジナル品種を育成した他のグロリオサ生産者に、来年春に開催されるジャパンフラワーセレクション春審査会への出品を強く勧めています。

農業改良普及課は、産地の活性化につながることから、部会の全体会で出品を働きかけるとともに、オリジナル品種育成を柱とした産地計画を作成しています。



【会場に展示された「ZEN」】



【オリジナル品種「ZEN」】

Copyright (C) 2018, Aichi Prefecture. All Rights Reserved.

「ネット農業あいち」 (<http://www.pref.aichi.jp/nogyo-keiei/nogyo-aichi/index.html>)